

広報

もりの 中部の森林



私の森語り「キハダを用いた信州木曾の伝統薬
『百草・百草丸』を未来へ」
日野製薬株式会社 代表取締役社長 石黒和佳子

写真：「間伐された高齢級ヒノキ林」(愛知所管内 段戸国有林)

本局のトピックス

- ・新局長 関口高士 ご挨拶

特集

- ・中部の森林 林業従事者写真コンテスト

各地からの便り

- ・「立山天空の森」整備活動計画の協定締結ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
秘蔵写真・今は昔の林業、国有林モニターのご紹介



林野庁中部森林管理局

国民の森林・国有林



2022/No.220

《本局のトピックス／新局長就任ご挨拶》



新局長就任ご挨拶

中部森林管理局長

関口

高士

六月二十八日付で中部森林管理局長に就任した関口です。よろしくお願いいたします。

また、中部森林管理局に関わるすべての方々に、あらためて日頃からのご理解、ご協力に感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願いする次第です。

さて、中部局あるいは局管内の国有林の特徴とはどんなものでしょうか。全国に七つの森林管理局があります。国有林面積約六十五万畝は四番目、位置的にも真ん中あたりといかにも中庸ですが、質的にみると雄大な自然とそれに伴う観光資源の多さ、木曾ヒノキに代表される高品質な木材資源、標高差からくる樹種の多様性等々、様々な浮かぶところ。木材で言えば、伊勢神宮での式年遷宮に管内国有林のヒノキ材が

使われていることは有名ですが、令和元年の皇位継承の儀式において建立された大嘗宮にも管内のカラマツ材が使用されました。

また、原生的な自然や希少な野生動植物を保護する保護林の設定、森林浴や自然観察等の利用を目的としたレクリエーションの森の設定等、木材以外の森林の機能に着目した取組も積極的に行っています。

問題は、中部局に限らず国有林全体の課題ではあるのですが、そういったことが国有林で行われているということをごのくらの方たちが知っているのか、ということ。七局の中では、中部局は地域の方たちと近い関係にある、と信じているところですが、いかがでしょうか。

山の人間は、寡黙であることが

美徳、という雰囲気が無きにしも非ずですが、関係者の皆様と職員が協力して一生懸命進めた取組が、知られていないのであれば残念な限りです。様々な取組を発信することによって、国有林が良い意味で多くの皆様の心に浮かぶ機会が増えれば、と考えています（その結果、「国有林があつて良かったね」と思っていたら、これ以上ない喜びです）。

また、何よりも大切なのは、国有林に関わるあらゆる方々が、安全で、健康に過ごせるということ。特に林業ということに関して言えば、他の産業に比べ、災害の発生率が高いという課題を抱えています。このことは何としても改善していかなければなりません。目指す方向は一致している中で、関係者一丸となって取組が進められればと考えています。SDGsの実践と言ってしまうと大概の課題は含まれてしましますが、地球温暖化防止、生物多様性の保全といった環境問題、いわ

ゆるウッドショックやウクライナ情勢への対応等国有林に求められる役割はその時々で大きく変化しています。皆様とともに、課題に向き合えるよう、努力していきたいと考えています。

◆略歴

出身地 埼玉県

平成 2 年 4 月

林野庁 管理部管理課採用

平成 24 年 4 月

林野庁 林政部林政課広報官

平成 26 年 4 月

東北森林管理局 計画保全部長

平成 28 年 8 月

林野庁 森林整備部整備課

造林間伐対策室長

平成 30 年 7 月

林野庁 国有林野部業務課長

令和元年 10 月

林野庁 国有林野部

経営企画課長

令和 3 年 4 月

林野庁 森林整備部計画課長

〈本局のトピックス／退任にあたって〉

退任にあたっての

ご挨拶

前局長 上^{かみ} 練三^{れんぞう}



この度の異動で、中部局を離れることになりました。

コロナ禍の中で、基本的な感染対策をとりながら、実行方法を工夫して業務に当たるといふ時期での勤務でしたが、関係の皆様や読者の方々のご協力により、在任を終えることができ、心より感謝申し上げます。

昨今連続している豪雨・台風等による災害は、在任した令和三年度も、お盆の真っ只中に発生しました。関係の市町村や県と連携し、被害状況の把握、応急復旧等に加え、長野県内では迂回路提供によ

り住民避難の支援を行いました。自然災害は起きて欲しくないことですが、発生直後の緊急対応がいかに重要かに直面する出来事でした。

他方、「新しい林業」の実践に向けては、林業の現場が抱えている、丸太生産性の向上と造林初期の低コスト化の実現に向け、生産性向上実現プログラムと伐造一貫作業に継続して取り組み、着実に前進しました。これに加え、低コスト化新技術モデル実証の検討を行い、伐採から造林初期までのトータルコストの低減に着手することができました。

また、いわゆるウッドショックといわれる輸入木材不足に端を発する需給ひっ迫と価格高騰は、国内資源の供給力を高めることによつて、和らげるとともに、カーボンニュートラル達成を含めた木材・木質素材、とりわけ豊富な国内資源の利用拡大に大きなチャンスになります。その中心となっている一般材に、中部局の特徴に

なっている(高)木曽ヒノキに代表される高齢級人工林材や特殊な樹種・規格材の供給を合わせて、国有林としての役割を果たせるよう取り組んでまいりました。広域流通、域内流通とも、プラスの変化が見られるようになっており、今後に期待がかかります。供給に携わる関係者が、ヨコのまとまりとタテのつながりを強固にするこ

とが非常に大切になると考えております。
本誌をはじめ様々なツールを使って中部局の取組を発信しておりますが、引き続き国有林野の管理経営にご理解を賜りますようお願い致します。



インタビュー取材 (R4.5.27:局長室)

最後に、県及び市町村、関係する法人・会社、並びに本誌を読んでくださっている方々に1年間の御礼を申し上げるとともに、皆様の益々のご発展とご健勝を祈念致します。退任の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございます。



令和4年度長野県植樹祭・長野地域森林祭 (R4.5.28): 一番左が局長

中部の森林 林業従事者写真コンテスト

季節や天候で日々変化する自然を相手にした山の中の林業の現場…。普段は人目に触れない、人里離れた森林で安全第一に頑張っている林業従事者の姿や林業の現場を広く知っていただくため、中部森林管理局主催の「中部の森林、林業従事者写真コンテスト」を開催いたします。

応募作品のテーマは、

「令和の林業に携わる姿と風景」

令和以降に撮影された伐採、集造材、運材、造林、安全作業、新技術、休息時間、通勤、監督、調査など、山で働くあらゆる場面の一コマを募集します。もちろん、単独の作業だけでなく、ドローンで撮影したチーム全体の作業風景も被写体となり、動画から切り取られた静止画像も対象です。

応募の対象者は、富山県、長野県、岐阜県、愛知県の森林で働く林業従事者とそれに関係する調査等をする方に限定しています。

ご応募いただいた作品は、広報誌やデジタル森林紀行(通称「デジ森」と同じように)に当局的ホームページなどでご紹介させていただきます。また、貴重な記録として保存するとともに広く活用させていただきます。

林業従事者のみなさまからのご応募をお待ちしております。

Good Wood Workers

令和の林業に携わる姿と風景
写真募集 **技人笑顔**

森で撮れた、自分や同僚・仲間の Good な写真を送ってください。

令和4年12月23日

写真はデジカメ・スマホ・ドローンなどなんでも
応募は簡単!

撮影は安全第一で QRコードから

応募できる撮影地域は 富山・長野・岐阜・愛知県内
応募は一人5点まで

主催
林野庁中部森林管理局

共催
長野国有林森林整備協会
名古屋造林素材生産事業協会
富山県森林組合連合会
長野県森林組合連合会
岐阜県森林組合連合会
愛知県森林組合連合会

後援
富山県 長野県
岐阜県 愛知県

応募対象者 : 林業従事者
撮影箇所 : 富山県、長野県、岐阜県、愛知県 の森林内
応募点数 : 1人5点以内
締め切り : 令和4年12月23日(金)

かわいい
応募要領は
こちら



- ◆入選作品について
 - ・発表 : 中部森林管理局HPに掲載します。
 - ・賞 : 最優秀賞1点、優秀賞4点、入選10点
- ◆応募写真について
 - ・令和以降に撮影された未発表作品であること。
 - ・応募作品の使用権は主催者(中部森林管理局)に属します。また、作品は展示用にプリントするなどして使用します。
- ◆表彰式
 - 令和5年2月には入選のお知らせと、表彰式出席の可否を確認させていただきます。
 - ※肖像権に関わる問題が生じた場合は、応募者の責任とします。



除去した竹のチップー粉碎作業

【富山森林管理署】
五月二十一日、「社会貢献の森」の協定を締結しているNPO法人「きんたろう倶楽部（以下「倶楽部）」と富山市大沢野国^{おおさわの}有林において、竹の除去作業及び除去した竹のチップー粉碎の作業を行いました。

大沢野国^{おおさわの}有林は防風保安林に指定されており、下層植生を促進させ防風機能を維持することを目的に、「風とせせらぎの森林」の名称で二〇一〇年より活動を行っていただいております。

「風とせせらぎの森林」の整備と
「立山天空の森」整備活動計画の
協定締結

当日は曇り空でしたが、倶楽部の会員七名と森林管理署職員四名で作業を行い、心地よい汗をかくことができました。



せせらぎの森林の作業終了

また、五月二十六日には、富山市ファミリーパーク内の自然体験センターにおいて、新たな国民参加の森林づくり活動の取組である「立山天空の森」整備活動計画協定書の調印式が倶楽部と当署により執り行われました。

調印式は、倶楽部の通常総会と合同で開催され、会員が見守る中、当署の^{なかしまあきふみ}中島章文署長と倶楽部の^{やまもとしげゆき}山本茂行副理事長（理事長代理）が調印を行いました。

「立山天空の森」整備活動計画は、立山黒部アルペンルート沿線の緑化復元事業の際に肥料木として植栽されたミヤマハンノキが、現在は大きく繁茂しており、観光バス等の交通の安全や美しい眺望の支障となるほか、本来の植生への遷移^{せんい}が停滞している例が見られるため除伐等を実施するものです。

昨年度、関係機関、地元企業、専門家等で構成される立山ルート緑化研究委員会と連携し、富山県森林研究所等の助言をいただきながら試験的にミヤマハンノキの除伐作業を倶楽部のみなさまと実施しましたが、この度、協定を締結したことで継続的に森林整備を行っていただけることになりました。

立山黒部アルペンルートは中部山岳国立公園内に位置し、本協定による主な活動区域は標高二千メートル付近に位置していることから、高山植物など稀少植物も多く生育しているため、作業着手前には植生調査などを行い、植生の復元に影響を及ぼさないよう慎重

に行くこととしていきます。また、除伐した枝や葉は土砂の流出を防ぐため立山黒部アルペンルート沿線の遊歩道の近辺に敷設することとしています。

植生の復元は困難であり、事後の検証も長い年月をかけて行う必要がありますが、本協定を機に地域にも貢献できればと考えています。

なお、今年度の活動は、七月末に予定しており、倶楽部や関係機関とも協働で行うこととしています。



調印式の様子



長野地域森林祭・みどりの少年団と力を合わせて風倒防止用の支柱を設置



式典の様子（中央が上局長）

当日は、地元のぶさとの信里みどりの少年団をはじめ、林業関係者や協賛企業など約百十名が参加し、晴天の下で盛大に実施され、「オオヤマザクラ」「ヤマボウシ」「ヤマモミジ」「オオモミジ」「ハウチワカエデ」の五種類の苗木七十本を植樹しました。

管内の各地で
植樹祭が開催されました

【北信森林管理署】

五月二十八日、長野市の茶臼山自然植物園にて、長野県植樹祭(長野会場)・長野地域森林祭が開催されました。



ABMORI・作業後の記念写真

六月五日、山ノ内町志賀高原蓮池スキー場にて、「第八回信州志賀高原から始まる市川海老蔵『いのちを守る森』づくり」が ABMORI 実行委員会の主催で開催されました。

当日は市川海老蔵さんをはじめ、公募による一般参加者(長野県内)、中野西高校(植樹リーダー)の生徒ら約五百人が参加し、「ミズナラ」「ウラジロモミ」など十三種類の苗木三千本を植樹しました。



北信州森林祭・北信地域の市町村が協力してカラマツを植樹

六月十八日、下高井郡木島平村池の平地区にて、北信州森林祭が開催されました。
 当日は、木島平村のみどりの少年団、北信地域の各市町村長等ら約百三十人が参加し、「カラマツ」四百五十本を植樹しました。

新型コロナウイルス感染症による中止も予想される中、規模の縮小や検温、消毒等の感染症対策を行いながら実施された三箇所での植樹祭でしたが、当署の職員は植樹祭のスタッフや植樹リーダーとして、各地域や団体のみならずとも汗を流し、地域の緑化と森林資源の整備に取り組みました。



植樹祭スタッフとして、参加者の体調を確認

昨年、一昨年と新型コロナウイルスの影響で中止となっていた式典でしたが、最後に野鳥愛護の精神をなくくむために、みどりの少年団がキジの放鳥を行い、和やかな雰囲気終了しました。
 式典後の植樹は、心配された雨に降られることもなく、来賓によ

新型コロナウイルス感染症による中止も予想される中、規模の縮小や検温、消毒等の感染症対策を行いながら実施された三箇所での植樹祭でしたが、当署の職員は植樹祭のスタッフや植樹リーダーとして、各地域や団体のみならずとも汗を流し、地域の緑化と森林資源の整備に取り組みました。

六月十一日、北佐久郡立科町の南平公園にて、佐久地域森林祭・長野県植樹祭(佐久会場)が開催されました。

佐久地域森林祭・長野県植樹祭(佐久会場)を開催

〔東信森林管理署〕



佐久地域森林祭・みどりの少年団による「みどりのふれあい宣言」

「シラカバ」の苗木の記念植樹および約三百名の参加者全員で「カラマツ」のコンテナ苗を、額の汗をぬぐいながら丁寧に植え付けました。
 参加者は、十年後、二十年後の成長に思いをはせながら、佐久地域でのカラマツ林業の再生を願い、無事作業を終えました。



植樹するみどりの少年団と中島署長

平成二十九年五月二十八日に当運動公園において第六十八回全国植樹祭が開催され、それから五周年を迎えた今年度においても、大切な日本の国土を次の世代に継承していくとする機運を継続させるため、魚津市制施行七十周年記念行事として開催された森林祭です。

「第十七回新川森林祭」と
「とやま森の祭典二〇二二」

【富山森林管理署】

五月二十八日、富山県魚津市にある魚津桃山運動公園において、第十七回新川森林祭が開催されました。



式典には当署の中島署長が出席し、新川地域の林業関係者や魚津花とみどりの少年団など地元関係者と一緒にはサツキツツジを植樹しました。また、会場において木工教室を開催したところ、約七十名の子どもたちが木工に挑戦し、職員が作った見本を参考にしつつ、とても独創的な作品を製作してくれました。



木工教室のブース内の様子

コロナ禍で久しぶりのイベント開催ではありましたが、当日は天候に恵まれ、親子づれの参加者にも木工教室は好評で、楽しかったという声を多くいただきました。

翌日の五月二十九日には、富山県射水市にある県民公園太閤山ラウンドにおいて、富山県及びとやま緑化推進機構が主催する「とやま森の祭典二〇二二」が開催されました。

式典には新田八朗富山県知事はじめ、林業関係者が参加し、式典後にはアジサイが植樹され、アジサイの苗木などの無償配布も行われました。

また、会場内では、スマート林業など、富山県の森林・林業・木材や緑化に関する展示のほか、「森の寺子屋」「樽型の形状をしたバレルサウナ」「伐採VR（仮想現実）」「ドローン」「ツリークライミング」「しいたけの植菌」などの体験ができるコーナーもありました。

県産材利用普及を図るブースの一角において、当署では木工教室を行い、親子づれなど約五十名にグルーガンを使用して木工クラフトを楽しんでいただきました。

当日は、三十度を超す季節外れの真夏日で、新型コロナウイルス感染症対策の観点からマスクの着用を徹底していたため、職員はこ

まめに水分や塩分を摂るなど、熱中症対策をしながら祭典を盛り上げました。

二日連続となる木工教室でしたが、その準備や当日の対応に、富山署職員一丸となって取り組み、多くのお客様のマスク越しの笑顔を見ることができました。



親子で木工作品を製作する様子



三年ぶり
金華山のごみゼロ清掃活動



【岐阜森林管理署】

「ごみゼロの日」の五月二十日、「国有林野ゴミゼロ運動」として金華山ドライブウェイの清掃活動を行いました。

当日は三十度超えの真夏日となりましたが、岐阜市をはじめ関係事業者や地域のボランティア団体など六十名が参加しました。

頂上に岐阜城がある金華山は、ロープウェイなどが整備されるとともにツブラジイやアラカシなどの照葉樹林に覆われた豊かな自然が残っており、周辺にはドライブウェイやハイキングコースが整備され、市民の森として多くの人に親しまれています。

参加者は四グループに分かれ、金華山ドライブウェイの入り口から展望台まで続く約五キロメートルの道路沿いの空き缶、ペットボトルなどを歩きながら拾い集め、約一時間半で軽トラック一台分のゴミを集めました。

金華山においての清掃活動は、



参加者のみなさんに挨拶をする久保署長

新型コロナウイルス感染症の影響で三年ぶりの開催となりましたが、当署では引き続き、地域のシンボルとなつている金華山国有林をはじめ、管内の国有林の美化活動に取り組んでいきたいと考えています。

また、今後とも国有林で多くの方々が気持ちよく過ごせるよう、山を訪れた際にはごみを持ち帰っていただく啓発活動にも取り組んでまいります。

想定外の多さにびっくり
国有林クリーン活動実施



【飛騨森林管理署】

六月二日、高山市清見町に所在する彦谷国有林及び隣接する県道九〇号(別名・飛騨卯の花街道)において、クリーン活動としてゴミ拾いや草刈りを実施しました。

この活動には当署の職員に加え、名古屋林業土木協会及び名古屋造林素材生産事業協会の会員など総勢四十七名が参加し、晴天の下、午前十時頃より一時間半ほどの作業に汗を流しました。

事前の下見では、ゴミが目立つ感じが全くなかったのですが、いざ作業を開始すると北アルプスや白山が一望できることで有名な猪臥山登山口の駐車場や飛騨市に抜ける猪臥山トンネルの入り口付近の駐車場周辺には、お弁当や飲み物のゴミが多く落ちており、手持ちのゴミ袋が一杯になってしまふ方がいるほどのゴミを回収しました。

結局、作業を終えて持ち寄ったゴミは、軽トラックの荷台が一杯



クリーン活動後の記念撮影

になるほどの量になり、一回はその量にびっくり!

山菜採りや登山で入林する方が増える時期でもあることから、クリーンとなった国有林を気持ちよく利用してもらうことに一役買うことができました。

今後もゴミの持ち帰り等マナー向上の啓発に取り組みつつ、クリーン活動も継続して行っていきたいと思います。

長野県上松技術専門校が
林業体験を実施

【木曾森林管理署・木曾森林ふれあい推進センター】

六月三日、長野県上松技術専門校の訓練生四十二名が長野県木曾郡上松町小川入国国有林で林業体験を行いました。

この林業体験は、木工分野への就職を目指して家具製作の技術を習得する中で、森林の役割、維持管理の大変さや木曾の林業の歴史を学び、木材を大切に活用する意識を養うことを目的として、同校が企画しているものです。

今回はヒノキ三十年生の林で除伐を行いました。五班に分かれ、職員によるノコギリの使い方と安全上の注意点を確認後、作業を開始しましたが、作業中に「ヒノキの区別がつかない。」との質問があり、職員が見分け方をレクチャーする場面もありました。訓練生はどの木を伐るか相談しながら慎重に作業を進めていました。

作業開始時には鬱蒼としていた林内でしたが、終了時には見違える

ほど明るくなりました。

午後からは、赤沢自然休養林内の学術研究路を見学し、職員の説明を受けながら赤沢のヒノキ林についての理解を深めました。

訓練生からは「林業体験は大変だったが達成感があった。」という感想や、引率の先生からは「木材やそれを育む森林について理解を深めることができ、訓練生に好評だった。」という言葉をいただきました。

当署では、今後もこのような体験を通じて、人材育成の一助となるよう努めていく考えです。



除伐作業の指導を受ける生徒たち

浜松中学校の職場訪問

【中信森林管理署】

六月九日、静岡大学教育学部付属浜松中学校二年生の四名が体験学習のために来署しました。

浜松中学校では、調査・探求活動の一環として「しなの体験学習」があります。「社会を支えるとは」をテーマに、浜松地域とは異なる環境のもとで、生活を支える人々とのふれあいを通じて自分たちの生活を見つめ直すことを目的としています。

生徒のうち三名は、長野県を初めて訪れたので、図面で位置を確認しながら、国有林野事業や当署の管内概要の説明に熱心に耳をかたむけていました。

その後、輪になって座り、生徒たちとディスカッションを行い、森林や林業、自然保護等の疑問・質問に答えました。また、「仕事をされる際にどんな気持ちを持っていらっしゃるのですか?」「仕事をしていて一番やりがいを感じる時はいつですか?」などの質問に対しては、

体験談を交えて話をしました。

一時間半という短い時間でしたが、今回の体験を生かして、生徒たちがどのように考え、行動し、どういう大人に成長していくのか、当署の職員としてだけではない、人生の先輩としてエールを送ることができ、森林づくりは、人づくりにもなると思われました。



国有林のことを学ぶ生徒たち

シリーズ

森林官からの便り

【愛知森林管理事務所
田口森林事務所】

地域技術官

山口力也

田口森林事務所は、通称奥三河と呼ばれる東三河北東部の山間部のどかな町、設楽町に所在しています。当森林事務所で管轄する国有林の森林面積は、約五六〇〇畝（設楽町森林面積の約二割）であり、その中でも一番面積が広いのは「段戸国有林」です。

段戸国有林のほとんどは人工林で、古いものは一八九三年に植えられた樹齢一二九年のヒノキ林があり、最古の造林地と呼ばれています。毎年少しずつですが、出材される丸太を「段戸SAN」（林齢が百年を超える木材）と表記し、出材しており、市場での人気も高く、高値で取り引きされています。また、段戸国有林の中央部には、「段戸裏谷原生林」があり、樹齢二〇〇年以上のモミ、ツガなどの

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。



人工林がほとんどを占める段戸国有林

常緑針葉樹と、ブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹が共生する天然林であるため、毎年多くの人たちが自然観察などに訪れ、賑わっています。



段戸裏谷原生林内の自然観察路

当森林事務所の仕事は、国有林の境界を見回る「巡検」、伐採する木の材積などを調べる「収穫調査」、事業体に発注した森林整備事業等の「監督業務」のほか、ニホンジカによる食害対策も行っています。ニホンジカの生息エリアが急激に広がってきており、苗木の食害が増え、対策として忌避剤の散布、獣害防護柵の設置、地元猟友会の協力を得て、くくり罠による捕獲も行っています。また、近年では野ウサギによる食害も出始めており、二年前に新植した苗木が

木が全部食べられた現場もあり、被害は深刻です。今後は、野ウサギの食害対策を検討していきたいと考えています。



野ウサギの被害状況を調べる筆者

■未来の担い手へのメッセージ
自然相手で思い通りにならないこともありますが、植えた木が育っていく過程を見られるのは、この仕事の醍醐味だと思っています。興味のある方は是非国有林へ就職してみてください。一緒に素晴らしい森林をつくっていきましょう。

シリーズ 「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「キハダを用いた信州木曾の伝統薬『百草・百草丸』を未来へ」



日野製薬株式会社
代表取締役社長
石黒 和佳子

■自己紹介
長野県木曾郡木祖村藪原の「日野製薬株式会社」に勤務しています。

弊社は信州木曾に古くから伝わる胃腸薬の百草、百草丸をはじめとする生薬製剤を製造、販売しています。

昭和二十二年に曾祖父、祖父である十代、十一代日野文平が弊社を設立し、今年創立七十五周年を迎えます。日頃よりお世話になっている多くの皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

■活動内容

百草・百草丸の主成分は、ミカン科の落葉高木キハダの周皮を除いた樹皮である生薬「オウバク」です。これらの生薬製剤をつくり続け、未来へ継承するため、キハダは欠かせないものです。信州木曾の豊かな自然と風土の中でキハダを大切に育て、将来の薬づくりに生かし、多くの方々へ健康長寿にお役立ていただきたいとの願いを込めて、キハダの植樹を行っています。



キハダから採取した生薬「オウバク」

またキハダの植樹から生育までの長年の年月を、木曾の森、土、水についての学びの期間ととらえ、情報の収集、蓄積、発信ならびに学習機会の提供に寄与することを目指しています。

今年、やぶらは高原スキー場、ゲレンデ跡地で、地域行政、団体、

企業の皆様と社員で苗木九百本を植樹しました。更に今年初めての取り組みとして、木祖村立木祖小学校の五、六年生三十六人とキハダ植樹体験学習を行いました。未来を担う子ども達が、木曾の自然の恵みや、薬草を用いる先人の知恵を知り、未来へつなぐ一助となればと願っています。当日は子ども達と苗木一〇〇本を植樹しました。



5月23日 キハダ植樹体験学習
(木祖小学校5・6年生の子ども達とともに)

■メッセージ

キハダの成長には約二十五年の歳月を要します。弊社が創立一〇〇周年を迎える時、今回のキハダで百草、百草丸をつくり、お客様へご提供し、体験学習に参加した子ども達に贈ることが私どもの夢です。

国内産のオウバクは年々希少になっていきます。樹皮のみならず、木部も含むキハダ全体を利活用する方法を模索することが、将来の安定的な原料確保につながると考えています。

自然の恵みを用いて健康を維持することは、先人から伝わる大切な暮らしの知恵であり、持続可能な社会の実現に寄与するものであると考えています。弊社では百草・百草丸づくりを通してこれに貢献すべく、社員一同より一層社業に精励し、研鑽を積んで参りたいと存じます。

〇連絡先

長野県木曾郡木祖村藪原1598番地

0264-36-3311

製品のご注文 0120-36-3310

<https://hino-seiyaku.com>



百草・百草丸



複合火山の特異な環境の植物群落

のりくらだけ
乗鞍岳

生物群集保護林

設定目的

乗鞍岳は長野県松本市と岐阜県高山市にまたがる剣ヶ峰(三〇二六メートル)を主峰とする、複数の火山が組み合わさって一つの火山体となっている複合火山です。そのため、溶岩流で形成された乗鞍高原等の平原や、カルデラ(湖沼)など特徴ある地形が見られ、このような特異な環境で生育する亜高山帯から高山帯の植物群落を一体的に保護しています。

地況・林況

乗鞍岳は火山としては富士山(三、七七六メートル)、御嶽山(三、〇六七メートル)に次ぐ高さで、日本百名山としても親しまれています。

保護林は乗鞍岳から北に延びる稜線の東斜面(長野県側)と西斜面(岐阜県側)に位置します。保護林下部は、シラビソ、オオシラビソ、トウヒ、コマツガからなる亜高山帯針葉樹林を形成し、標高が高くなるにつれてダケカンバ群落へ移行します。保護林上部は高山帯となり、標高二、五〇〇メートル前後より広大なハイマツ群落や、ミヤマキンポウゲ等の高山植物からなる雪田草原を形成します。

シリーズ

中部の保護林(第15回)

所在地
長野県松本市、岐阜県高山市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第15回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「下刈り」
したが



昭和三十一年の下刈風景
(現在の飛騨森林管理署管内)

植栽した苗木の成長が妨げられないように雑草木を刈り払う作業が下刈りです。植栽してから数年間、毎年、夏季に行われる作業ですが、暑い中での作業になることも多いため、林業の中でも最もつらい作業だと言われています。

かつては人が大鎌を振って下草を刈り払っていました。これは作業者の力量以外でも、

使う鎌が上手く研げているかどうかで作業効率が大きく異なり、作業途中であっても鎌が切れなくなれば砥石で研ぐものでした。

昭和三十年代中頃から国有林でもガソリンエンジンの刈払機かりはらいき(下刈り用の機械)が導入され始めました。肩掛け式の刈払機は現在でも見られますが、背負い式の刈払機が使われていたこともあります。また時代が経つにつれ電池式の電動刈払機も使用されるようになっていきました。



砥石で鎌を研ぐ風景 (旧名古屋営林局管内)



背負い式の刈払機 (昭和37年・旧長野営林局管内)

刈払機が使われ出すようになってもお、大鎌を使った作業は続きました。これは急斜面や太い雑草木の箇所など、大鎌で行った方が効率的な現場もあったからです。木の伐採や運搬は林業の機械化とともに大きく効率が上がりましたが、下刈りなどの造林作業をより効率化することは現代でもなお課題となっています。



真夏の下刈り

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



国有林モニターのご紹介



ほしの 星野 あけみ 暁美 (長野県)

◇自己PR..(趣味や特技など)

好きなことは編物、運動不足なので太極拳を始めました。コロナでなかなかできませんが頑張ります。

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

自然に興味があります。長野県で開催された全国植樹祭を見て大感動しました。また、信州花フェスタ二〇一九には十回以上行きましたが、近ければ毎日でも行きたかったです。自然にふれたいし、自然を大切にしたいです。

◇国有林に期待すること

国の大切な資源、森林、自然を残しておきたいです。

令和四年度 優良職員等表彰

広報「中部の森林」197号の「お役に立ちます国有林」、213号の「特集 現地検討会」でご紹介した『独立基礎型流木捕捉工』について、取組が今年度の優良職員表彰として林野庁長官賞を受賞しました！



上局長から表彰状を受け取る治山課の職員

六月二十七日、局長室において表彰状の授与式が行われ、藤原治山課長が代表して賞状を受け取りました。

【受賞対象】

「新たな流木捕捉技術『独立基礎型流木捕捉工』の考案と調査、技術資料の公表」

【受賞者】

- 計画保全部治山課・
- 富山森林管理署・中信森林管理署
- 岐阜森林管理署・東濃森林管理署

独立基礎型流木捕捉工は、平成二十九年の九州豪雨による甚大な流木災害等の発生を受けて考案されたもので、短期間に安全に設置可能で、効率よく流木を捕捉できるように開発され、設計・施工等のガイドラインも策定しているところです。

また、本工法を各地で参考にしてもらうため、七月七日には、当局及び九州森林管理局の職員を対象としたWEB講習会を開催しました。

今後とも、流木災害の事前防災・減災対策の実現に向け、施工現場を確認しながら更なる工夫を検討していくとともに、地域の安全を確保し安心して生活できるように各地での取組を進めてまいります。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

「中部の森林 林業従事者写真コンテスト」の写真募集が始まりました!!!
 あれは3ヶ月前、富山署から局に赴任してきて間もない時の出来事です。
 デジタル森林紀行(デジ森)の美しい風景写真、そして、過去へタイムスリップできるモノクロ森林紀行の写真と映像を紹介している中部局のホームページ☆
 これからも内容を充実させて、みなさんに紹介していきたいと考えていたところ、「山で働く人の現在の写真があまり無いから、コンテストで募集して、ホームページで紹介したらどうか?」とのお話が...
 そんな急にコンテスト開催なんてできるの?(^▽^;) と思いながらも、山の仕事を知らしてもらいたい、山で働く姿を見てもらいたい、そして自分も見たいという気持ちが強く、特設チームの一人として準備を進めてきました。1枚でも多くの写真をご応募いただけたら嬉しいですが、一番の願いはやはり健康安全です。
 林業従事者のみなさま、山の作業も写真撮影も安全第一でお願いします。



デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



27. [コバイケイソウと中央アルプス] (南信署管内)

